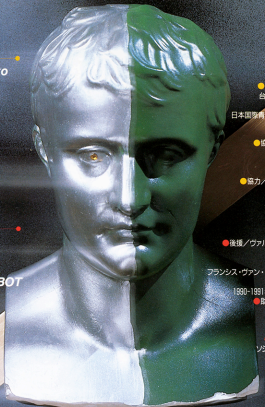


## JAPANESE ARTISTS

**ARIYOSHI Tetsu + Naoko**  
**ITO Naoaki**  
**ITO Nanao**  
**KAWASHIMA Atsuko**  
**TSUCHIYA Yutaka**  
**DEGUCHI Michiyoshi**  
**HIRAKAWA Noritoshi**  
**MATSUEDA Hideharu**  
**MIZUTOME Shuji**  
**YAOITA Chikara**  
**YAMA MOTO Nobuki**

## BELGIAN ARTISTS

**Thérèse CHOTTEAU**  
**Juan d'OUTREMONT**  
**Evelyne DUBUC**  
**Monika et Bernard HUBOT**  
**Michel MOUFFE**  
**Veerle PINCKERS**  
**SEROUX**  
**Christine WILMES**  
**Bernard VILLERS**  
**Catherine WARMOES**



## Asakusa

- 主催/国際現代美術交流展実行委員会 朝日新聞社
  - 後援/外務省、文化庁、東京都教育委員会、台東区、台東区教育委員会、ベルギー大使館、日本ベルギー協会、国際芸術文化振興会、日本国際青年文化協会、東京都台東区商店街振興組合
  - 助成/国際交流基金、アサヒビール芸術文化財団
  - 協賛/トヨタ自動車、全日空、鐘淵化学工業、東京電力、松下電器
  - NHKアート、大塚オーミ音楽、ライオン、KENT、北斗開発
  - 協力/ウィークリーマンション・ツカサ、凸版印刷、オーヤマ機軸、ホルベイン工業、アーテックス構造堂、サンシヨウ
  - 企画制作/ギャラリー・サージ
- ORIENTATION CINQUANTE NORD**
- 主催/エコール・アン・ギャラリー
  - 後援/ヴァルミー、フォーベルギー国フランス駐米首席シヤルル・ピケラツセル地域首長、ジヨルジュ・テジール/ツツセル地域首長、フランシス・ヴァン・ノールテンベルギー王立美術歴史博物館館長
  - 1990-1991年国王の祝典協会、駐ベルギー日本大使館
  - 助成/ベルギー国フランス語圏国際協力総局、ベルギー国フランス語圏、ベルギー一鐘淵化学工業、全日空
  - 協力/フレネー・アート、トランスポート、シエエ・ジェネラル銀行、ミニット・プリント
  - 企画制作/エコール・アン・ギャラリー

日本ベルギー一現代美術交流展

# ASAKUSA 浅草へ

## Orientation 50 Nord

■日本/(旧)金竜小学校校舎(浅草)1991年4月7日(日) 20日(土)  
 ■ベルギー/サンカントネール公園(ブリッセル)1991年11月4日(月) 17日(日)  
 [ARTISTS WORKS] 3月23日(日) 4月6日(日) [LECTURE-SYMPIOSIUM] 4月14日(日)

### JAPANESE ARTISTS ■ BELGIAN ARTISTS



En avril 1991, l'exposition "Asakusa" sera ——— ORGANISÉE PAR: le Comité Exécutif de l'Exposition d'Echange International d'Art Contemporain le Journal ASAKUSA / ● SOUTIENUE PAR: le Ministère des Affaires étrangères/ Secrétariat d'Etat aux Affaires Culturelles/ Bureau de l'éducation de la Ville de Tokyo/ Ambassadeur de France à Tokyo/ Bureau de l'éducation du Gouvernement de Tokyo/ Ambassade de Belgique au Japon/ Japan Belgium Association/ Japan Interculture Association/ Japan Arts & Culture Association/ Association pour le promotion de l'art contemporain de ASAPA (Asaka, Tokyo) / ● SPONSORISSEES PAR: Fondation du Japon/ Asahi Beer Arts Foundation / ● SPONSORISSEES PAR: TOYOTA MOTOR CORPORATION/ ANA (All Nippon Airways)/ KANEKA/Kanagawa Chemical Industry Co./ TOKYO ELECTRIC POWER COMPANY/ National Panasonic/ NEW ART/ OTSUKA OHMI CERAMIC CO.,LTD./ UION CORPORATION/ KENT a./ WAKAMATSU / ● AVEC LES CONTRIBUTIONS DE: Weekly Center/SUKASA/ TOPPAN PRINTING CO.,LTD./ DHYAMA LIGHTING/ HOLBEIN Works LTD./Arens Hakkai-Indu/SUNSHU / ● PRODUCTION: Galerie SURF.

En automne 1991, l'exposition "ORIENTATION CINQUANTE NORD" sera ——— ORGANISÉE PAR: l'Atelier de l'Art Contemporain de la Communauté Française/ Charles Picqué, Ministre-Président de la région bruxelloise/ Georges Diez, Ministre de la région bruxelloise/ Madame Van Nieuwen, Comtesse et Secrétaire des Musées royaux d'Art et d'Histoire/ Monsieur Jacobs, Conservateur des Musées de l'Arrière-pays (Avignon)/ A.S.B.L. Filles du Roi 1990-1991/ Ambassade du Japon en Belgique / ● SOUTIENUEES PAR: le Commissariat Général aux Relations Internationales/ la Communauté Française de Belgique/ ● SPONSORISSEES PAR: Panasonic Belgium n.v./ KANEKA Belgium n.v. / ● AVEC LES CONTRIBUTIONS DE: DEFENSE ART TRANSPORT/ SOCIÉTÉ GÉNÉRALE/ MINTI PRINT / ● PRODUCTION: Ecoles et Galeries

ものがアートになる場面

美術は今やある不透明な危機を内包しているように思える。そして、もしそれが危機であるならば、展示空間と作り手と作品とは、同様の危機を共有していることになるだろう。美術館はそもそも政治や経済において圧倒的な力を持つひとりの実力者の意向に基づいて収蔵された作品を広く公開する特権的な空間であったとしても、現代においては、はやこのひとりの実力者はその権を失われている。政治的、経済的な力は民主主義の名のもとに分散され、美術館は複数の責任者のもとで大衆意識全体を見渡すことのできな相手の意向に基づくことになった。また、常識もしくは仮設の美術的空間の増加により、美術館の特権性は年々相対的に薄れてきている。しかし、そのことが問題なのではない。本当の危機は、美術館自体の方向性を絶対的に決定できる権力者の消失によって、そもそもある意味では「もの」でしかない美術作品からある価値を見出す、美学という超越的な判断行為、もしくは判断行為を行使することを正当化した権力とそれが失われたことの内にあり、また、現代の美術がその出発点において従来の美術の否定という目的を持っていたことは否めない。そしてその目

●レクチャー

10:00PM-1:00PM

■スライドによるレクチャー

●フランス・ポレル/ベルギーの現代美術

(美術評論家フュッセル)

●前山 裕司/日本の現代美術

(埼玉県立近代美術館学芸員)

●酒井 信一/大谷地下美術館'84-89

(国際現代美術交流展実行委員会代表、ギャラリー・サージディレクター)

4月7日/6:00PM~ (オープニング  
パフォーマンス)

■ゆみがほ きちら(舞踏)

■入間川 正美(チェロ)

■クリストファ・シャルル(書)

# 1991 ART NOW

制作/(旧)金竜小学校校舎講堂/1991年3月23日(日) 4月6日(日)9:00AM~5:00PM

展示/(旧)金竜小学校校舎内/1991年4月7日(月) 4月20日(日)9:30AM~5:00PM

●ワークショップ(公開制作)/3月31日(日)10:00AM~12:00PM 1:00PM~3:00PM ●オープニングレセプション/

講堂/4月7日(月)5:00PM~7:00PM ●レクチャー・シンポジウム/講堂/4月14日(日)10:00AM~4:00PM

的は社会の発展にもなって皮肉な形で実現することになる。しかしそのことは決して否定すべき対象の喪失した状態では、ただ否定する活動性だけが残されている作品をもたらすことにもなった。新たな美学が創造されるなら、そのような作品も、その否定が有効であるか否かという基準において価値を持ったかも知れない。しかし、もはや美学の現状は哀容の一端をたどっている。以上をふまえたとき、ここにいくつもの問題がある。

1. 美術館は現在、誰が、誰の意向に従って、研究・情報収集・展示企画・作品購入を進めているか。すなわち、美術館の日常を支える美学とはいかなるものか。

2. その結果としてある美術館は、誰に対して最も有効に機能するか。すなわち、美術館とは、誰のものか。

3. 同時代の美術作品は美術館においてどのように位置づけられるべきか。

4. 現在、美術作品に対する一元的な価値基準は本当に失われてしまったのか。それは今なお存在するのか。

5. 失われているとすれば、それは必要なか。なぜ必要もしくは不要なのか。

6. 今、何が美術作品を美術作品たらしめるのか。

●シンポジウム

2:00PM-4:00PM

■パネルによるシンポジウム(質疑応答)

■パネル

●フランス・ポレル

(美術評論家フュッセル)

●千葉 成夫

(美術評論家、東京国立近代美術館主任学芸員、国際美術評論家連盟正会員)

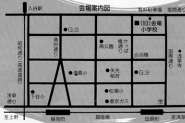
●竹山 博彦

(栃木県立美術館学芸部長)

●藤岡 稔(司会)

(大層市立美術館学芸員)

めぐる(変遷する世界情勢、その中において、今、美術はどうなっているのか。またどうなっているのだろうか……)「日本ベルギー現代美術交流展」開催にあたり、内外の評論家、学芸員が、現代美術の状況、報告を交えながら、現代美術の持つ意味や、未来について語り合います。ベルギーで、日本に大変詳しい美術評論家として名高いフランス・ポレル氏、牛窓国際ビエンナーレ コミュニケーターやSDダタマ日本コレスポンサントを務め、活躍中の美術評論家 千葉成夫氏、「アート・キュメント'87」を企画し現在、栃木県立美術館学芸部長の竹山博彦氏を招き、「ものがアートになる場面」をテーマとして、熱い議論が展開されます。



●各欄に詳細情報がございせんばの電報番号にてお問い合わせ